

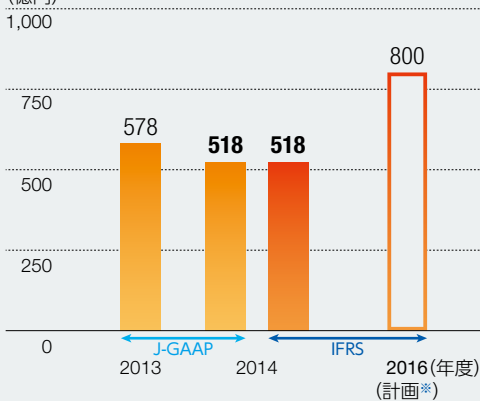
事業概況

産業用材料・機器事業
産業用光学
システム分野



売上高

売上高
(億円)



2014年度の主な成果

計測機器

- 主力製品のディスプレイ用光源色測定器を中心に、おおむね堅調に推移。

産業・プロ用レンズ

- 主力製品が堅調に推移し、市況が厳しいなかで売上が前年比増を達成。

その他

- コンパクトデジタルスチルカメラ用レンズは需要縮小により減収。

市場環境(機会と課題)

- モバイルディスプレイの数量拡大や表示機器の大型化の進行により、光源色測定市場が拡大。
- 物体色測定器の主要顧客である自動車業界では生産台数が漸増。
- 生産ラインにおける自動化投資の拡大によりFA計測市場が拡大。

強みと戦略

- 高精度計測機器の幅広いラインナップ。
- 光源色測定器について、モバイル機器や照明、自動車などのメーカーを中心にグローバルな大口顧客(GMA)を獲得。
- Radiant社の買収により、強みを持つ色計測技術を、FA用途や外観計測用途などの関連分野に拡大。

* 2014年5月に公表した数値

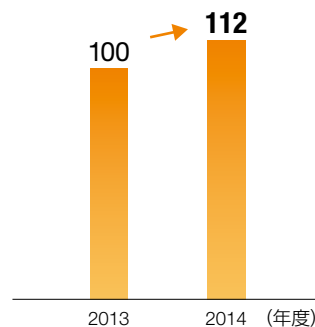
2014年度の業績と2015年度の見通し

産業用光学システム分野では、ディスプレイ用光源色測定器や産業・プロ用レンズなど、主力製品がいずれも堅調に推移しました。その一方で、コンパクトカメラ用レンズは、需要縮小の影響を受けて低調でした。

これらの結果、2014年度の当分野の売上高は、前期比10%減の518億円(IFRSベース 518億円)となりました。

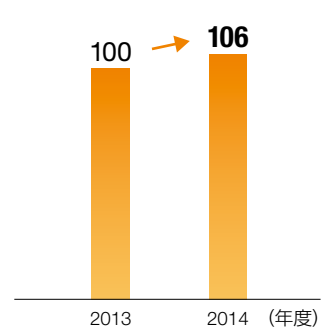
2015年度は、引き続き主力製品の拡販に努めるとともに、FA用途や外観計測などをターゲットに、当社が強みを持つ色計測技術の領域拡大を図ります。これらにより、2015年度の当分野の見通しは、IFRSベースで、前期比22%増の売上高630億円を見込んでいます。

計測機器事業売上高



* 2013年度を100とした場合の指数

産業・プロ用レンズ売上高



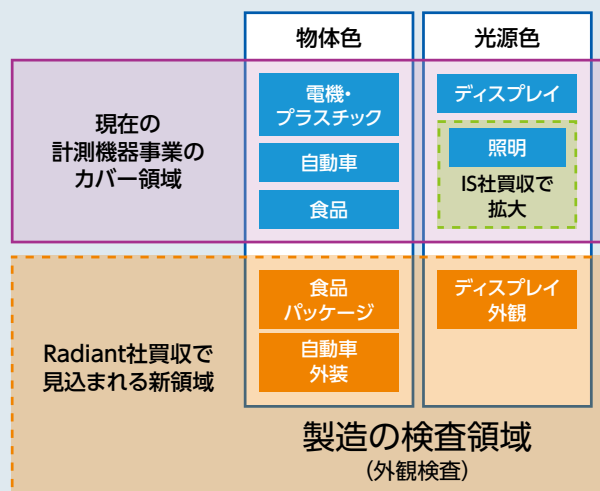
* 2013年度を100とした場合の指数

Focused Topic

米国の大手ディスプレイ検査システムメーカーを買収

当社は2015年8月、グローバルなディスプレイ検査市場において、お客様の要望に応じた検査システムを提供するリーディングメーカー、Radiant Vision Systems社を買収しました。

近年では、デジタル製品の市場拡大にともない、これら製品の品質を左右するキズや欠陥を確実に検出するシステムへの需要も伸び続けています。今回の買収により、Radiant社が強みを持つ外観検査システムと、当社が得意とする色測定技術のシナジーを創出し、成長が見込まれる製造検査領域への参入を推進します。



成長戦略

計測機器では、2012年12月にドイツの大手照明関連測定器メーカー、Instrument Systems社を買収したことで、光源色の測定技術が大幅に強化されました。フェーズ0では、この領域におけるジャンルトップの地位を固めるとともに、自動車産業やスマートフォンやタブレットなど成長著しい産業のディスプレイ検査分野でのGMA(グローバルな大口顧客)獲得に向けて、色測定ソリューションやクラウドなど新技術と組み合わせたサービス提供に注力します(右下図市場の見通し参照)。

フェーズ1では、光源色など得意領域で培った技術やノウハウを活かせる、周辺領域への事業展開を図ります。なかでもRadiant社の買収により強化した、生産ライン内でさまざまな外観検査を担う「FA計測」を成長市場として重視しています。

FA計測への進出は、フェーズ2のテーマであるデジタルマニュファクチャリングサービスにもつながります。近年、ドイツにおいて、デジタル技術で工場全体をスマート化する「インダストリー4.0」が注目を集めているように、製造現場の自動化が加速

しています。こうしたトレンドのなかで、検査工程における外観検査の重要性がさらに増しており、当社が得意とする光や色の測定技術を駆使してデジタルマニュファクチャリングの実現を支援することで、新たなビジネスチャンスを生み出していきます。

産業・プロ用レンズでは、プロジェクター用光学ユニットや交換レンズが堅調に推移しています。ピックアップレンズについても家庭用ゲーム機向けを中心に高いシェアを堅持しています。フェーズ0では、これら領域で圧倒的なポジションを獲得することで、収益基盤としていきます。

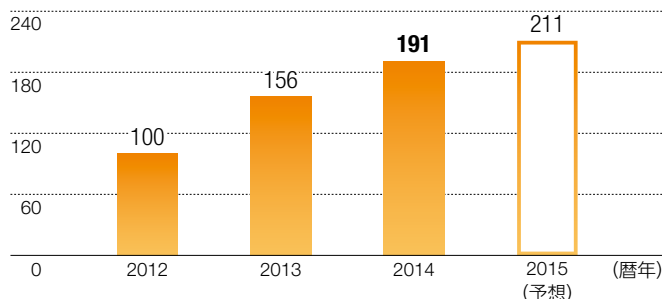
フェーズ1では、当社の強みである光学設計・高精細光学加工技術にさらに磨きをかけるとともに、これまで培ってきたコンポーネント・ユニット技術を柱に据え、従来の主力であった家電用途から、自動車、医療、光通信、プロジェクターといった成長領域へのシフトを進めていきます。

フェーズ2では、さらに将来に向けて、業界トップクラスの光学デバイス群を提供し続けることで、広く社会に「安心・高付加価値」を提供できる存在となることを目指します。

成長ロードマップ



スマートフォン&タブレット市場の推移と見通し



※ 2012年を100とした場合の指数
※ 当社調べ